

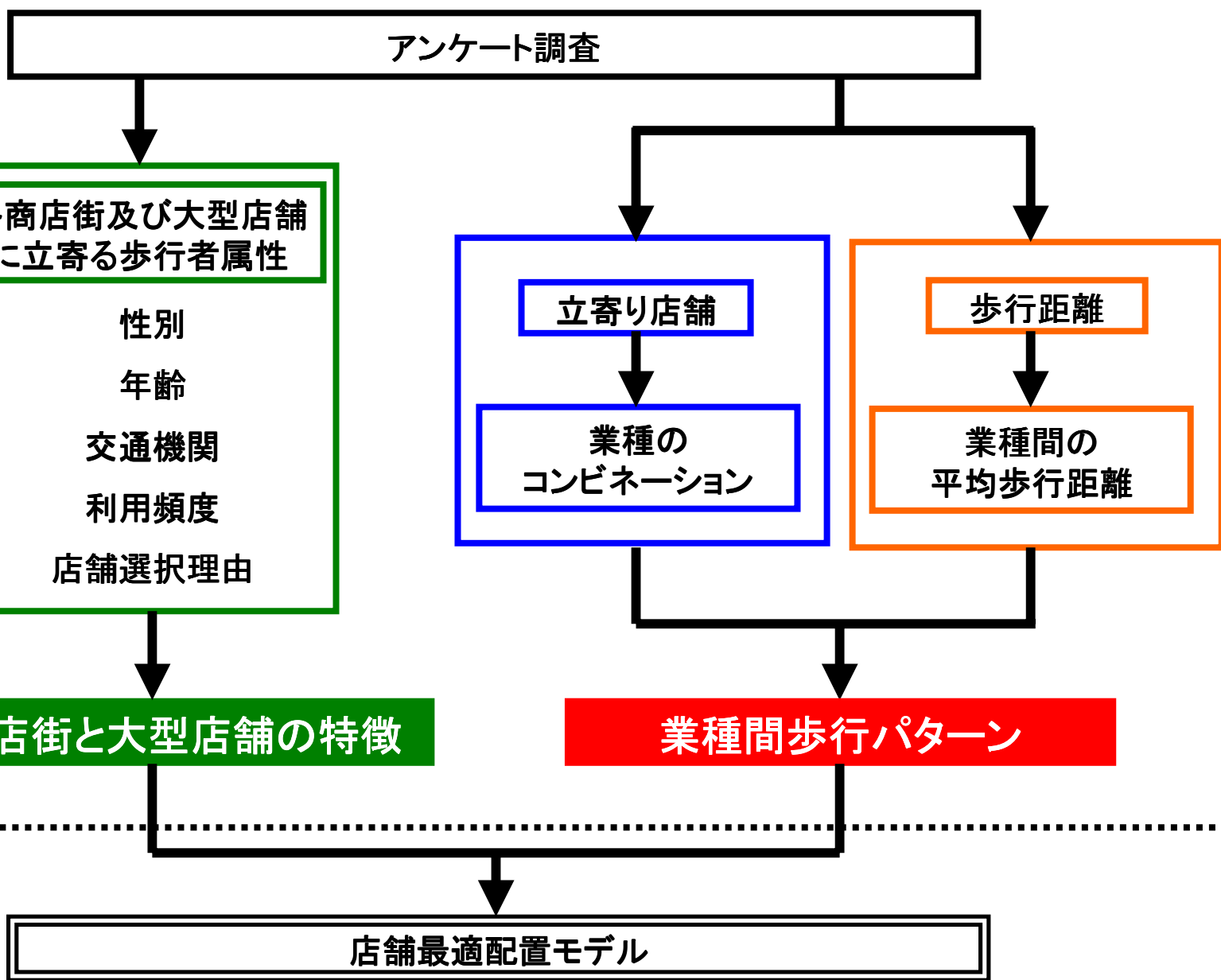
買物行動に基づく店舗最適配置モデル構築に関する研究
～大分市中心市街地をケーススタディとして～

0935055 門久 史嗣

研究目的

商業環境におけるクロスショッピングの進展、および買物空間の整備を図るべく、店舗の最適配置モデルを構築する。

研究の流れ



業種間歩行パターン

業種間歩行パターンの導出方法

業種のコンビネーション

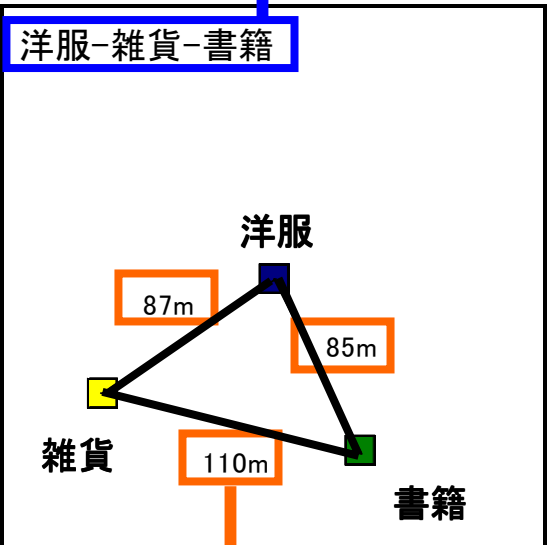


店舗に立寄る連続性

業種間の平均歩行距離



店舗の配置距離



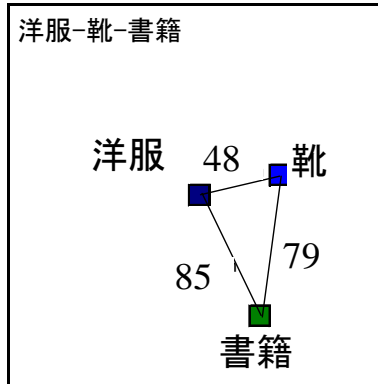
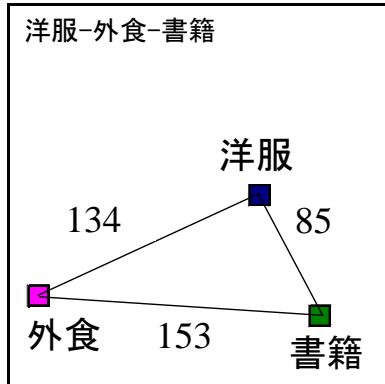
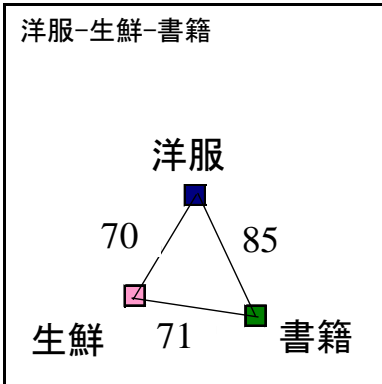
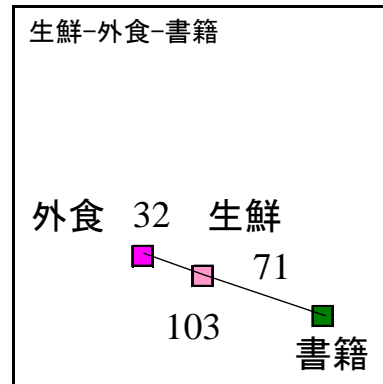
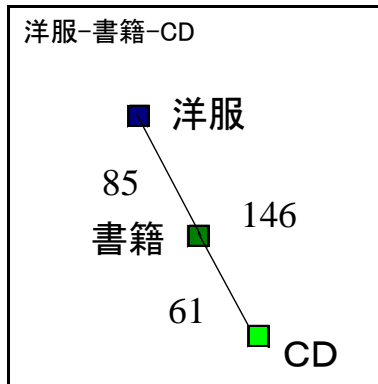
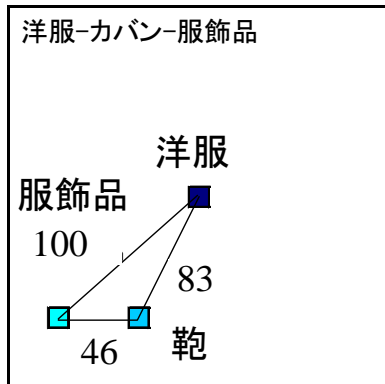
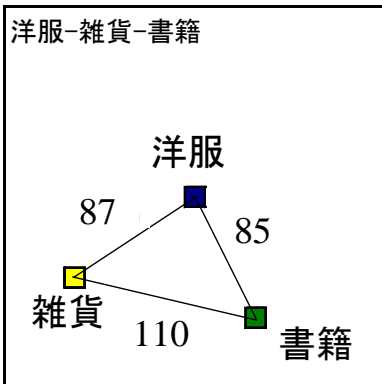
業種間歩行パターン図

業種	業種	度数(人)	平均距離(m)
洋服	洋服	55	153
洋服	雑貨	30	87
洋服	靴	28	48
洋服	服飾品	28	100
洋服	生鮮	19	70
洋服	外食	16	134
洋服	書籍	16	85
書籍	雑貨	15	110
書籍	書籍	14	167
洋服	CD	14	173
洋服	カバン	12	83
カバン	靴	12	23
書籍	CD	12	61
生鮮	書籍	8	71
外食	書籍	8	153
雑貨	雑貨	8	143
カバン	服飾品	7	46
靴	書籍	7	79
洋服	娯楽	6	232
CD	CD	6	148
生鮮	外食	5	32
服飾品	書籍	5	133
書籍	家具	5	80
レジャー	雑貨	5	89

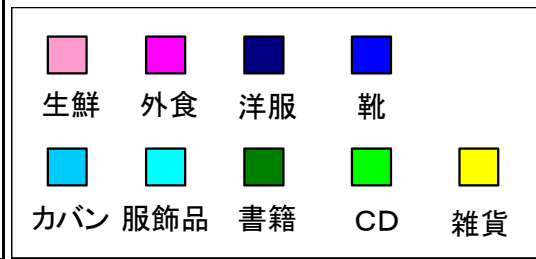
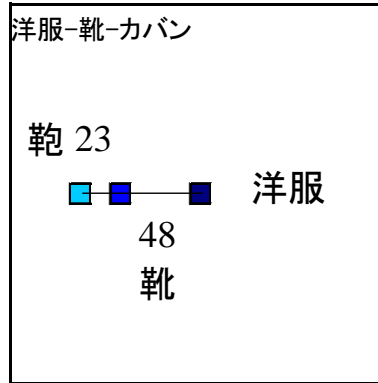
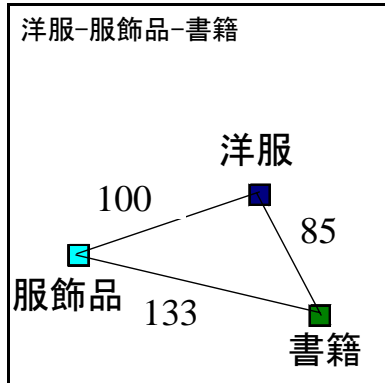
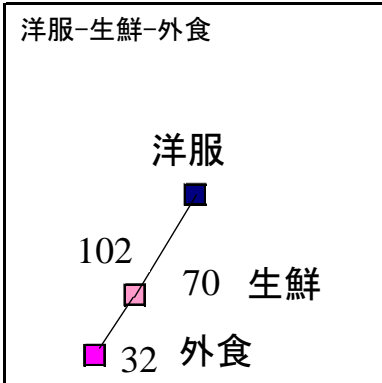
業種間歩行パターン

業種間歩行パターン図

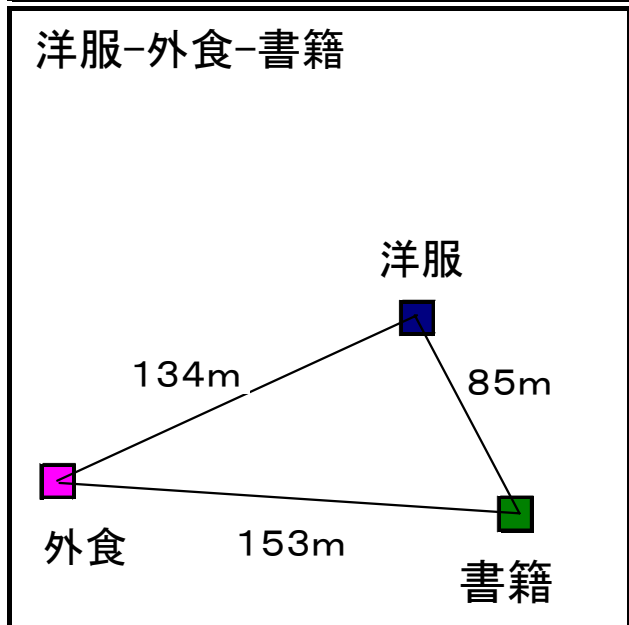
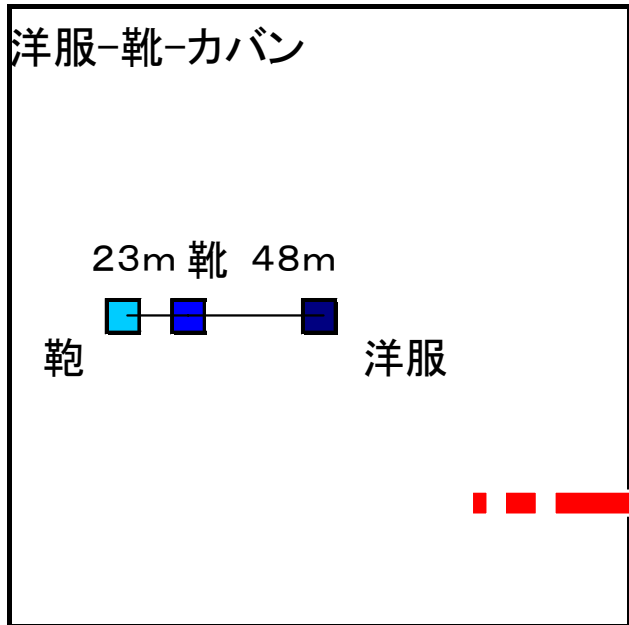
店舗最適配置モデルを構築する上での基礎的データ



* 数字の単位は全て(m)



業種間歩行パターン



「洋服-靴-カバン」の空間上での相関

距離関係が接近した位置に配置している

小範囲での買物行動が行われる

商店街におけるミクロ的配置計画

「洋服-外食-書籍」の空間上での相関

広い範囲に展開している

買い回り行動が、広範囲において望める

中心市街地を対象としたマクロ的配置計画

結論

1. 来街者の買物行動は、「洋服」を中心として買い回り行動が行われている。
2. ある業種間での立寄り人数の大小と、空間上でのその業種間の位置関係には必ずしも相関があるとは限らない。
3. 業種の組合せによって、店舗を配置するときの距離的關係が変化する。

今後の展望

店舗最適配置モデルを構築する上で、基礎的データである業種間距離パターンのマクロ化を図る必要がある。